

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年3月4日

## 【評価実施概要】

|               |                                       |
|---------------|---------------------------------------|
| 事業所番号         | 4270500566                            |
| 法人名           | 株式会社 こすもすケアセンター                       |
| 事業所名          | グループホーム秋櫻                             |
| 所在地<br>(電話番号) | 長崎県大村市西大村本町755-1<br>(電話) 0957-20-7700 |

|       |                          |       |               |
|-------|--------------------------|-------|---------------|
| 評価機関名 | SEO (株)福祉サービス評価機構        |       |               |
| 所在地   | 福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F |       |               |
| 訪問調査日 | 平成 21年 3月 2日             | 評価確定日 | 平成 21年 3月 25日 |

## 【情報提供票より】(平成 20年 4月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

|       |           |        |                      |
|-------|-----------|--------|----------------------|
| 開設年月日 | 平成14年6月1日 |        |                      |
| ユニット数 | 1 ユニット    | 利用定員数計 | 9 人                  |
| 職員数   | 10人       | 常勤     | 6人, 非常勤 4人, 常勤換算 5.7 |

### (2) 建物概要

|      |            |       |
|------|------------|-------|
| 建物形態 | 併設/単独      | 新築/改築 |
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート造り |       |
|      | 2階建ての      | 2階部分  |

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |                |                |          |       |
|---------------------|----------------|----------------|----------|-------|
| 家賃(平均月額)            | 32000円 35000円  | その他の経費(月額)     | 12,600 円 |       |
| 敷金                  | 有( ) 150000 円) |                | 無        |       |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有( ) 500000 円) | 有りの場合<br>償却の有無 | 有( )     |       |
| 食材料費                | 朝食             | 300 円          | 昼食       | 450 円 |
|                     | 夕食             | 450 円          | おやつ      | 円     |
|                     | または1日当たり 円     |                |          |       |

### (4) 利用者の概要(平成 20年 9月 30日現在)

|       |          |      |     |    |     |
|-------|----------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 9名       | 男性   | 1名  | 女性 | 8名  |
| 要介護1  | 0名       | 要介護2 | 2名  |    |     |
| 要介護3  | 1名       | 要介護4 | 5名  |    |     |
| 要介護5  | 1名       | 要支援2 | 0名  |    |     |
| 年齢    | 平均 89.3歳 | 最低   | 81歳 | 最高 | 97歳 |

### (5) 協力医療機関

|         |                       |
|---------|-----------------------|
| 協力医療機関名 | 秋櫻醫院 中澤病院 大村こころと歯の診療所 |
|---------|-----------------------|

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣に住む方々の採光等を保つため、あえて建物は2階建てにしている。1階の玄関を入ると、2階までの吹き抜けの天井が開放感を与えてくれる。ホームは2階にあり、入り口には、名前の通り“秋櫻”の花のちぎり絵が飾られており、ホームの中に一步入ると、ご利用者と職員の温かい笑顔に出迎えられる。「ここのご飯は美味しいよ、みんな優しい人ばかりで・・・」と、ご利用者の方から日頃の暮らしぶりを話して下さる。一つ的话题をきっかけに話が広がっていき、そのまま笑い声に変わっていく。“子を愛し、子は親を大切に思う”親子関係の方が多く生活されており、日々の暮らしの中や面会時に、その姿勢を通して職員も学びを多く頂いている。このホームを設立されたのは、医師である代表ご夫婦であり、代表のもとで医療連携体制も整えられており、ご利用者の一番の安心にもなっている。ホームの管理者でもある部長は、看護師で介護支援専門員の経験もあり、代表ご夫婦とともに、「地域の皆様のためにできることは何か」を追求し実践し続けてきた。職員の育成にも努め、“業務優先”から“ご利用者ベース・ゆとりある暮らし”と言う、ホームにとって大切な意識を持って、職員が行動できるまでになってきている。

## 【重点項目への取り組み状況】

|           |  |
|-----------|--|
| 重点項目<br>① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価以降、「薬の管理及び与薬に関するマニュアル」の改正を行った。元々作成されていたマニュアルに、誤薬を防止するための対策を具体的に赤字で追加し、職員に徹底指導を行った。今回の取り組みで、何のためのマニュアルなのかの再確認を行うこともできた。</p>   |
|           | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>年に1回、自己評価を行うことで業務の振り返りと反省を行っている。今までは、部長を中心に職員と一緒に自己評価に取り組んできたが、今年度は、副主任に任せる方法をとった。各自が自己評価を行い、それを基に全員で話し合いを行った。最後に、部長が“取り組んでいきたいこと”を追加し完成させた。</p>   |
| 重点項目<br>② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>町内会長(現会長・前会長)、市役所職員、ご家族、前入居者ご家族などが参加してくださっている。ホームの理念、活動内容やご利用者の状況を報告後、参加者からの意見・要望などを伺っている。意見や疑問などについては、部長(管理者等)から、状況を丁寧に説明し、回答している。「消防訓練時、他の隣保班の人も声かけし、参加してもらったら?」と言う意見を頂き、その後の訓練の時には、他の隣保班の方にも参加して頂く等、ホームの運営にとっても有意義な会議となっている。ご利用者とも一緒に、お食事会やお茶会をする機会も作っている。</p> |
| 重点項目<br>③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームで生活されている“お父様やお母様”に対するご家族の愛情が強く、職員は感動している。その大切な“お父様・お母様”の日々の暮らしぶりや健康状態を、個別にお知らせしていきたいと言う気持ちも強く、合わせて、ご家族の不安や心配なことを把握し、解決できる支援も続けていきたいとも考えている。毎月、各ご利用者ごとに“グループホーム秋櫻便り”を作成しお渡ししている。写真や暮らしぶり等をお便りの中に掲載している。ご家族からのお気持ちを知らするために、声かけも続けている。</p>                             |
| 重点項目<br>④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>平成7年、石田代表ご夫婦が“さくらクリニック”開設時の理念の中に、「私たちは地域の皆様の健康と尊厳ある生活をサポートします」と言う思いを盛り込み、その実践を続けてきた。地域の方々に対してのプレゼントとして、グループ主催の市民講座へのご招待や、ホーム主催のお祭り(五月祭・もちつき等)へのご招待も続けてきた。今では「自分も、いずれはここで生活させてくださいね」「ここがあるから安心」と言うお言葉を、地域の方から頂けるようになってきている。また、地域の高校等の生徒が、行事の時にボランティアとして参加してくださっている。</p>              |

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                           | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|------------------------------|----|---|--|------|--|
| <b>I. 理念に基づく運営</b>           |    |   |  |      |  |
| <b>1. 理念と共有</b>              |    |   |  |      |  |
| 1                            | 1  | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  | みどりグループの代表は、「・・地域の皆様の健康と尊厳ある生活をサポートします」と言うグループの理念のもと、平成7年にクリニックを開業した。在宅の方々の生活を支援し続けてきたが、“生活の場”としてのグループホームを平成14年に開設する際に、代表、部長、職員と共に「生き生きと暮らせる居心地の良い住まい」と言うホーム独自の理念を作った。“生き生きと暮らせる”と言う言葉には、“地域の中で”と言う意味が込められている。   |      |  |
| 2                            | 2  | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                     | グループに来て下さっている書道の先生に理念を書いて頂き、皆さんが集うリビングに掲示している。部長は、常々職員に「個人個人を大切に下さい」と伝え続けてきた。理念の意味は職員も理解しており、理念の掲げる時に、ご利用者の関わり方を検討している。その中で、理念の実践にもつながる「ケアがご本人に合ったものなのか」の振り返りを行っている。全職員、精神面・身体面含めて“お1人お1人をよく知る”ことを意識して、日々、努力を続けている。                                      | ○    | 職員は、一人一人が前向きで、ひた向きにご利用者に向き合い、日々のケアを行っている。経験も積み、ご利用者中心の関わりができるようになってきている時期だからこそ、自分たちの拠り所である“理念”をあらためて見つめ直し、お1人お1人のご利用者の生活に置き換えて、振り返りをしていく機会を作られてみてはいかがであろうか。大切な理念の意味を、より職員全員が理解し、取り組みの支えにされていかれることを期待していきたい。                      |
| <b>2. 地域との支えあい</b>           |    |   |  |      |  |
| 3                            | 5  | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | 開設以前から、部長が中心となり地域の方々との関係作りを続けてきた。ホームの開設当初、ホームの存在や役割を理解して頂くために、年に2回“もちつき会”や五月祭”を行い、地域の方をご招待した。部長のネットワークにより、高校生や短大生等がボランティアとして参加して下さるようになり、今では、地域の方の楽しみの行事の一つとなっている。また、年に1回、地域の方へのプレゼントと言うことで、外部より講師を招き、地域の方々も招待しての講演会を行っている。                              | ○    | 現在、町内会に入っており、町内会長や民生委員の方々とは交流もできている。今後は、地域の老人会や公民館活動にも、ご利用者と一緒に参加していきたいと考えている。まずは部長自らが、会合や行事がある時に参加して顔馴染みになっていき、少しずつ、ご利用者も参加できるよう取り組みをしていきたいと考えている。また、近所の子ども達が、気軽に遊びに来て欲しいとも考えている。今後も、運営推進会議等の場を活用しながら、実現に向けた取り組みができていくことを期待したい。 |
| <b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b> |    |   |  |      |  |
| 4                            | 7  | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | 部長は、年に1回の評価に対して、自分たちの業務を振り返りができる良い機会と考えている。昨年度までは、全員の話し合いの場で自己評価を行ったが、意見の出方に差が見られていた。今年度からは、自己評価の方法を副主任に任せた。職員個々に自己評価票を記入してもらった後、全員で話し合いを行ったが、個別に自己評価を行ったことで、一人一人の項目に対する視点や考え方が違っている部分があることに気がついた。昨年度の改善内容についての取り組みも、全員で続けてきた。                           |      |  |
| 5                            | 8  | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回、開催しているが、開催のご案内を事前に参加者に配布(郵送、手渡し、ファックス等)している。会議を重ねるたびに意見が活発になってきており、地域で生活している方のお困り事や要望などが着実に増えてきている。この地域には何が必要なかを知る良い機会となっており、参加者の方々との信頼関係も深まってきている。頂いた質問には丁寧に回答し、よりホームのことを知って頂く機会にもなっている。ご家族(現利用者や前利用者)も参加して下さり、感想やホームの暮らしぶりを伝えて下さるので、ありがたく思っている。 | ○    | 今後は、ホームで生活されているご利用者お一人お一人に対する“職員の関わり方”等へのご意見も頂ければと、部長は考えている。自己評価・外部評価の項目と結果をご報告する中で、いくつかの項目を参加者の方々にも見て頂き、気づいたことやアイデアを教えて頂くなどの機会を作ってみてはいかがであろうか。更に、ホームの役割の理解にもつながるとともに、新鮮な意見を頂ける場になることも期待できる。                                     |

| 外部                     | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印)      | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|------------------------|----|--|---|-----------|--|
| 6                      | 9  | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                               | 平成13年から、大村市役所で行われていた“地域ケア会議”に、部長が参加しており、市役所の方々とともに地域の課題解決に取り組んできた。制度に関して納得ができないことに関しては、直接、部長が市役所に出向き、意見交換を続けてきた。市役所の方もきちんと対応して下さっている。現在は、部長だけではなく、介護支援専門員の方も市役所の窓口を訪問し、情報交換をしている。   |           |  |
| <b>4. 理念を実践するための体制</b> |    |  |   |           |  |
| 7                      | 14 | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている                              | ご家族の方々にはホームに協力的で、発熱等の体調の変化を電話でお知らせすると、時間の都合をつけてホームに駆けつけてくださる。ホームで生活されている、お父様やお母様のことを大切に思っておられることが理解できるために、ホームの方からも、日々の健康面や暮らしぶりは、個別に丁寧に、ご報告するようにしている。ご家族からも「いろいろと伝えてくださるので嬉しい、安心です」と言うお言葉を頂いている。                                |           |  |
| 8                      | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                                | ホームの入り口の外のスペースに、テーブルといすが置かれてあり、そこには外部評価の結果一覧やご意見を書いて頂ける用紙等を置いている。ご家族に、ゆっくりと思いを書いて頂くための空間として活用してもらっている。ご家族には、ご利用者と一緒に過ごして頂きながら、ホームでの生活を知って頂くことを大切にしている。ご家族が来訪時は、「何かご要望がありませんか?」と、職員の方から声かけするようにしており、意見や要望を伝えやすい配慮を続けている。         |           |  |
| 9                      | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 質の向上と合わせて、職員が慣れ合いにならないために(新しい風、新しい技術を取り込んでいくためにも)、毎年4月に、他の同系列の事業所間での異動は行われている。大きな異動にはならないように、一人か二人に限られている。原則、運営者(代表・部長ともに)は、馴染みの関係で、ご利用者の介護ができるような取り組みが行われることを大切に考えている。異動の時は便りでお知らせし、新規職員への引き継ぎもしっかり行ない、ご利用者の混乱や不安が生じないようにしている。 |           |  |
| <b>5. 人材の育成と支援</b>     |    |  |   |           |  |
| 10                     | 19 | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている              | 運営者は(代表・部長ともに)、職員育成に力を入れている。半期に一度、各職員は“目標シート”を自分で書き、部長が面接を行っている。部長は、各職員の日々の仕事状況や、研修への参加率等も含めて、目標の達成状況を評価している。勉強会は、毎月ミーティング時に行っているとともに、他、新人研修や中堅研修、グループ主催で行う市民講座等、その時期の旬の話題を盛り込んだ研修の機会も、多く作っている。                                 | 右欄へ<br>続く | 外部研修(実践者研修や県・市の研修)にも職員を参加させている。受講だけにとどまらず、事例発表も行っており、確実に職員のレベルアップになってきている。 |
| 11                     | 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている    | 運営者(代表や部長)は、開設当初より同業者との交流の必要性を認識している。大村市の認知症グループホーム連絡協議会に入り、協議会主催の研修会や事例の合同検討会に参加し、相互訪問等も行っている。部長は、平成13年より(昨年まで)、居宅部門の会長を務めるなど、積極的に事業所間の連携を強める取り組みを続けてきた。   |           |  |

| 外部                                 | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印)  | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|------------------------------------|----|--|---|-------|--|
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>         |    |  |   |       |  |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応          |    |  |   |       |  |
| 12                                 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | ホームができる前から、このような施設ができることを望まれている地域の方々が多かった。開設に時間がかかった経緯もあったが、「開設するまでは在宅での生活を頑張る」と言う思いの中で過ごされてきた方々が半分もおられた状況でもあり、入居に際しても心待ちの入居の方が多かった。開設以降も、まずは見学に来て頂いたり、ご自宅や病院に部長が面会に行き、顔馴染みの関係を作っている。ホームの見学時、ご利用者や職員の方々の温かい出迎えを受けるため、見学に来られた方も自然と馴染まれ、拒否される方はおられない。 | 右欄へ続く | “ご利用者同士の思いやり、温かさ”が、新しいご利用者の不安を包み込んでいるホームである。入居後、少し混乱された場合は、ご家族に連絡して訪問して頂き、一緒に周辺を散歩して頂くなど、ご本人のお気持ちに添った対応に配慮している。                                  |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援          |    |  |   |       |  |
| 13                                 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                       | 職員は、ご利用者から料理の味付け、梅干作り等の作り方を教えて頂いている。職員は、「毎日が発見で、毎日学びを頂いている」と感じている。以前、農家をされていた時代の苦労話を聞くことで、ご本人の培ってきている強さを知り、その会話の中で、職員は癒されることも多い。励まして頂く事も多く、職員は、ご利用者の方々に支えて頂いていることに、毎日感謝している。  |       |  |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |    |  |   |       |  |
| 1. 一人ひとりの把握                        |    |  |   |       |  |
| 14                                 | 33 | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | ご利用者の日々の生活への思いを知りたいと、いつも職員は考えている。毎日の生活の中で、何事につけご本人に問いかけの形で言葉かけをし、ご利用者の意思を確認するようにしている。アセスメント(情報収集)シートは、MDSを活用しており、生活、医療含めて全般に情報収集を行い、日々の課題も知る(抽出できる)ようにしてきた。また、職員全員、ご家族からもご希望をしっかりと伺い、ご本人の望む暮らしに近づけるよう思いや意向の把握を続けている。                                |       |  |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し     |    |  |   |       |  |
| 15                                 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している        | 介護計画のファイルの表紙には、ご本人の笑顔の写真が貼られている。計画の内容、表現ともに、ご利用者の視点に立っており、現在行なっているケアは、「地域で暮らす」視点も含めてほぼ記載されている。作成にあたっては、ホーム職員と話し合いをしており、ご本人、ご家族、主治医や訪問看護師、作業療法士、理学療法士・言語聴覚士・栄養士などにも相談し、意見を頂きながら作成している。また手順に添ったサービス内容も盛り込まれている。                                       | ○     | ご本人のことを大切に考えた温かい計画が作成されている。今後は、更に、ご本人の役割やご家族の役割なども、計画に盛り込まれてみてはいかがであらうか。その時その時の役割が盛り込まれることで、役割や目標等を話題にした話し合いが深まっていくことも期待できる。今後の更なる取り組みを期待していきたい。 |
| 16                                 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している    | 毎朝のミーティング時に、ご利用者全員の申し送りをを行い、職員間で、ご利用者ごとの変化の有無を共有している。状態変化があった時やご本人・ご家族から、新たな要望を頂いた時には、予定時期の前でも見直しをしており、適宜、計画の変更も行っている。変化の兆しについての気づきや、ケアの変更の必要性の話し合いも、毎月行なっている。  |       |  |

| 外部                                 | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|------------------------------------|----|---|---|------|---|
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>           |    |   |   |      |   |
| 17                                 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                           | 職員は、ご利用者の日々の体調の変化を観察し、訪問看護師や医師との連携を取り、病状の早期発見、早期治療につなげている。入院中もお見舞いに行き、医師との話し合いのもとで、早期退院が図れるような配慮を続け、「ホームで生活したい」という願いを叶えられるようにしている。ご利用者のご希望に応じて、昔なじみの場所へドライブにお連れしている。“白寿”のお祝いに職員も招待され、お祝いの会の時には、ご本人の傍で食事等の介助も行い、“楽しいひととき”となるよう支援を行った。また地域の方からも、日々、介護に関する相談等を受けている。 |      |   |
| <b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b> |    |   |   |      |   |
| 18                                 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している              | ご本人やご家族に、医師や医療機関への要望を確認しており、希望に沿って受療頂ける体制を整えている。提携医、精神科医、リウマチの専門医は定期的に往診して下さる体制を整えている。ホームでの生活を医師が見て下さるので、生活に即したアドバイスを頂けている。医師から、直接ご家族に病状報告をして下さっている。週に1回、訪問看護師も来ており、職員も、日々の病状の変化を看護師等に細やかに報告できている。他の専門外来は、職員とご家族も一緒に受診同行している。病状の変化は、迅速にご家族に報告している。                |      |   |
| 19                                 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 今までにお一人、ホームで看取りを行なった。看取りの時は、ご家族も協力頂き、「お母さんが、混乱せずに済みました(最後、病院等に場所が変わらなかったのも)。最期はここで・・・と考えていたので、良い形で最期を迎えることができました」とご家族からのお言葉を頂くこともできた。「ここ(ホーム)で、自然に最期を・・・」と言う方々がほとんどであり、医師、看護師、職員含めて、方針の統一も行なえており、職員教育も続けている。  |      |   |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>   |    |   |   |      |   |
| <b>1. その人らしい暮らしの支援</b>             |    |   |   |      |   |
| <b>(1)一人ひとりの尊重</b>                 |    |   |   |      |   |
| 20                                 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | ご利用者をご自分のペースで生活できるような配慮を忘れず、目上の方に対する尊敬の念をもって接している。また、ご利用者の居室を入室する時は必ず声かけを行ない、個々に応じた話し方をするように気をつけている。個人情報に関する話をするときは、他に聞こえないよう配慮するとともに、書類の管理を含め、全職員がプライバシー確保の徹底ができている。   | ○    | 「慣れ合い」にならないように、日々、職員は意識しながら過ごしている。お互いに、他の職員の言葉かけが気になる時は、注意し合うようにしているが、今後も、「親しみ」の言葉と「慣れ合い」の言葉の違いやラインを、職員全員で話し合っていきたいと考えている。ご利用者の皆様にもアドバイスを頂きながら、“発する言葉・発する心理”を見つめていかれることを、今後も期待していきたい。 |
| 21                                 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している            | それぞれのご利用者は、ご自分の生活のペースで過ごされている。目めくりカレンダーもご利用者自身で作成し、心身状況に応じた家事やレクレーション等も思い思いに楽しんでいる。ご希望を言葉で表出できないご利用者であっても、職員が寄り添い、表情やわずかな言動、行動などからご利用者のお気持ちを汲み取るように配慮している。開設当初は、職員の気持ちの中に、「～しなければならぬ」と言う“業務優先”に捉われていた部分があったが、年々、「ご利用者のペース」を優先した“ゆとり・余裕”を重視する意識が出てきている。            |      |   |

| 外部                                   | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|--------------------------------------|----|---|---|------|--|
| <b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b> |    |   |   |      |  |
| 22                                   | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | ホールの2つのテーブルで楽しく食事をしている。昼食は、1階の通所サービスの厨房で一緒に作って頂いているが、朝と夕食はホームで作っている。もやしの根切りや酢の物の味見、盛り付け、片付け、食器拭きと、できる範囲でご利用者にも手伝って頂いている。旬の食材を使うことで季節感を味わうとともに、菜園で収穫したきゅうり、ゴーヤ、トマト、なす、きゃべつ、ピーマン等を利用して美味しい食事作りを楽しんでいる。時には、外食するときもある。                                | ○    | 現在、職員と一緒に食事をする機会は少ない。「できれば、楽しく会話をしながら一緒に食事をしたい」と職員も考えており、今後の取組みの中で検討を続けていってほしい。“家庭的”な雰囲気を作れる場の一つが“食事”のひとつであり、昔の食事の話や季節の料理の話題が膨らむ時間でもある。今後、更なる楽しい食事時間となっていくことを期待していきたい。 |
| 23                                   | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | ご利用者の希望も聞きながら、週に3回、午前中に入浴されている。「入りたくない」と言う方にも、シャワーのみで済ませるのではなく、同時に足浴も行なうなどの対応もしている。入浴時に、座位バランスが悪い方には、いすの工夫をして安定して入れるようなアイデアを出す等、職員は細やかな観察を続け、少しでも安心して入浴できるような配慮を続けている。現在、手すりの追加設置の工事や、脱衣所の改築工事を行う予定になっている。季節に応じて、菖蒲湯やゆず湯等も行っている。                  |      |  |
| <b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b> |    |   |   |      |  |
| 24                                   | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | ご利用者が長年培ってきたお力を発揮して頂けるよう、梅干しや漬物指導、座ってできる料理、洗濯物たたみなど日常生活の中で役割を持って頂いている。また、昔からの好きな歌をご家族と唄ったり、クラフト作業などを楽しまれている。隣のケアホームに習字の先生が来られるため、その時間を楽しみにされている方もおられる。お1人お1人のお力を発揮して、活躍の場、楽しみの場をより多く作れるよう配慮している。  |      |  |
| 25                                   | 61 | ○日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                   | ご利用者の希望を聞きながら、月に1回は、お弁当を持って出かけたり、外食に出かけている。おやつやの買い物に行くことを楽しみにしている方もおられる。敷地が広く、畑も作られており、夏の時期は野菜の収穫のために、畑に出る方も多かった。   | ○    | この春に職員が増える予定でもあり、今後はもっと日常的な散歩や買い物を増やしていきたいと職員は考えている。ホームが2階にあり、周囲の見晴らしも良いのだが、直接、季節の花々を眺めたり、自然の移ろいを身近に感じたり、地域の方々(子どもたち)との何気ない挨拶をするなど、更なる外出の機会が増えていくことを期待していきたい。          |
| <b>(4) 安心と安全を支える支援</b>               |    |   |   |      |  |
| 26                                   | 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 防犯上の理由で夜間帯は鍵をかけているが、8時から19時まで玄関の鍵はかけておらず、ご利用者、ご家族の方には自由に入出入りして頂いている。職員同士で声をかけ合いながら、同敷地内の職員とも協力し、お1人お1人の行動の確認や見守りを行っている。   |      |  |
| 27                                   | 71 | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている      | 消防署の協力も得ながら、ご利用者にも参加いただき、年に2回、消火、避難訓練を行なっている。「防火訓練実施要項」「消防避難誘導訓練マニュアル」が作成されており、マニュアルは、文章だけではなく、場面ごとの写真も掲載されている。訓練実施後、「総合避難訓練総括」が作成され、大村消防署からの指導内容、査察結果等が記載されている。災害時に備えての備品としては、水、食料、毛布、おむつ等が準備されており、他の施設からの応援体制もある。ご利用者名簿は、緊急時のために安全な場所にも保管されている。 |      |  |

| 外部                                | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印)  | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|-----------------------------------|----|---|--|-------|---|
| <b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b> |    |   |  |       |   |
| 28                                | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | ご利用者お一人お一人の食事に関する好みを把握しているが、「食べられない」と言う思い込みをしている方もおられ、栄養バランスも考えながら形を変える等の工夫をしてお提供している。自然と、苦手な食材を食べられるようになった方もおられる。食事量、飲水量ともに、把握、記録している。定期的な体重測定・血液検査の結果に基づいて医師などから助言を頂いている。  |       |   |
| <b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>    |    |   |  |       |   |
| <b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>            |    |   |  |       |   |
| 29                                | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホームの1階には事務所があり、2階まで吹き抜けの空間が造られている。2階に上がると広い廊下があり、ホームの入り口には、団らんもできるようにテーブルやいすが置かれている。ホームの中に入ると、広いホールの横に、和室の間があり、こたつが置かれている。ホールの横のベランダは、陽がよくあたり、干し柿が下げられ、漬物を作るために白菜が並べられるスペースにもなっている。ホール内は、ご利用者手作りの日めくりカレンダーが下げられており、季節を感じさせる品々が品よく飾られている。 | 右欄へ続く | ホールの天井には天窓があり、明るい日差しが注いできている。天窓は、カーテン等で明かりの調整もできるようになっている。陽が降り注ぐ下にテーブルがあり、着物柄の布をテーブルの上に置いて和の空間を作っている。トイレは3つあり、臀部等を洗うことができるシャワー付きのトイレも配置されている。 |
| 30                                | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                   | ご利用者、ご家族の方々と一緒に相談しながら、鏡台、ベッド、布団、写真などを持ち込んで頂いている。ご利用者にとって馴染みのある部屋になるように、配置も工夫している。職員と一緒に作った作品や書道等は、すべてファイルに保管し、各居室に置いている。ご家族の面会時に一緒に見ることができるようになっている。   |       |   |